



とよさき
デコート・豊崎・アリサ

ジャーナリスト、写真家、監督、遊牧民のトゥアレグ族を支援する団体「サハラ・エリキ」代表。父はフランス人、母は日本人。サハラ砂漠を4か月かけて横断する塩キャラバンの日常を追った映画「Caravan to the future」発表。塩キャラバンや福島原発事故、ニジェールのウラン鉱山について執筆中。

自然の恵みを借り、伝統的な知恵を生かしていた昔の世界は、とても生き生きしていた気がする。塩キャラバンに同行したとき、その生命力に圧倒された。彼らは失われつつある世界の最後の証言者、生き残りだ。砂漠を何時間もラクダで横断したあとに、焚き火の周りでお茶を飲みご飯を食べた満足感忘れられない。いい人生とは快適さではなく、自分の力で懸命に生きのびることなのだを彼らを撮影して感じた。



みちしろまさひろ
道城征央

小笠原や沖縄、ミクロネシア方面へ年間に何度も旅することから「南海の放浪カメラマン」の異名を持つ。「人と自然との関わり方」をテーマに幅広い講演活動を行う。また、埼玉動物海洋専門学校において「自然環境保全論」「海洋環境学」の特任講師を務めている。

ミクロネシア連邦を通して私の途上国へのイメージは大きく変わり、手つかずの自然の美しさや現地の空気にはまってしまい、今では現地の人々とともに清掃活動などを通じて環境問題にも取り込んでいる。世界の中心は政治や経済の力だけで決まらない。地球は球体で、その中心は人それぞれ、どこにあってもいい。私にとっての中心であるミクロネシアから、今私たちが忘れていたことを、写真を通して発信していきたい。



あべゆうすけ
阿部雄介

岐阜県生まれ。機内誌をはじめ、さまざまな媒体で活動。世界の熱帯雨林や野生動物などの撮影をライフワークとし、ボルネオには30回以上通っている。2009年にマレーシア・サバ州観光省主催の「サバ・ツーリズムアワード」にて、海外記事部門最優秀賞を受賞。

世界は広く、美しいものや驚くべきものがたくさんある。写真は美しい瞬間を永久的にとどめ、言葉を越えて直感的にたくさんの情報や感動を伝えられる手段だ。生き物が持つ美しさをありのままに伝えたい。一方で、私たちが豊かな暮らしを追求した結果、遠く離れた地の自然環境を破壊しているという現状に気づいてほしい。ボルネオの熱帯雨林のような素晴らしい生命の森が、いつまでも地球上に残ってほしいと願う。



おかもと さな
岡本 央

宮城県生まれ。写真家。「自然と風土に遊び学び、働く」、世界の子供たちや日本の子ども「郷土」をライフワークとして撮り続けている。著書に「ブータン 幸せの国の子どもたち」（共著・東京書籍）、「泥んこ、危険も生きる力に ないないづくしの里山学校」（家の光協会）ほか。

私の撮影テーマは「農村と子ども」だ。農村を見ずしてその国は語れない、農村の子どもたちの姿こそが国の将来を物語っていると思うからだ。都会の子どもたちの教育環境や衛生事情との格差にときに言葉を失うが、先進国が失いがちな生きるための活力や強い家族愛などを感じることも多い。紛争や貧困などの負の面だけでなく、家族愛、人間愛を原動力に将来への夢を失わない、人々の優しさや強さも伝える写真を撮影していきたい。

「地球ギャラリー」の特設サイトがオープン!

写真で旅する世界

～ファインダー越しの途上国～



まつお じゅん
松尾 純

広島県生まれ。19歳の頃から一眼レフを持って世界を旅する。50以上の国と地域での撮影経験を持ち、世界各地の辺境で暮らす人々を写し続ける。最も得意なフィールドはチベット文化圏。近年は広島を拠点に本や雑誌への執筆、取材撮影、講師、写真展などで活動中。

被写体のことをもっと知りたいうえで、背景にあるものを理解したうえで写真を撮りたいと思う。旅人として通り過ぎるだけでは気づけなかった多くのことを、写真を通じて知った。価値観は人それぞれで、幸せの概念も同じではない。一方で、親から子どもへの思いのようにどんな世界にも共通するものもある。モンゴルの鷹匠一家の少年は私の息子と同年で、3歳から知っている。私にとって彼らは家族だ。早く戻れるときがきますように。

これまでに掲載した記事を
特設サイトで公開

JICA広報誌「mundi」の連載コーナー「地球ギャラリー」は2008年10月に始まり、これまで12年間にわたって新進気鋭の写真家やベテランフォトジャーナリストらとらえた“途上国の今”を、写真と文章で紹介してきた。各国が抱える課題やありのままの人々の営みをさまざまな切り口で映し出す記事には読者からも多くの反響があり、今年1月、JICA公式ウェブサイト上に「mundi 地球ギャラリー」の特設サイトをオープンした。

サイト内では過去に「mundi」誌面に掲載された記事を、まさしく「ギャラリー」をめぐるように、より写真を楽しめる形で公開している。また、写真家の清水匡さんと桜木奈央子さんの特別インタビュー動画や、二人が登場した「EARTH CAMP」*1のオンライントークイベントの動画も公開中*2だ。

特設サイトでは、3月末までに10本の記事と、動画を公開していく予定だ。このページでは5人の写真家の作品の一部と、一人ひとりがどのような思いでファインダーをのぞいてきたのかを紹介する。

*1 毎年開催している国際協力キャンペーン（詳細はp.34～35を参照）。
*2 当日の詳しい様子や動画はp.24～25を参照。

サイトはこちら▶

